

FLORA of KOCHI

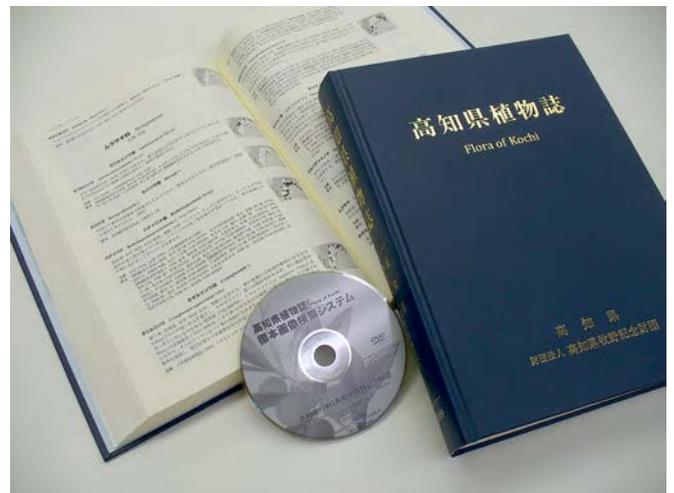
No. 24

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

「高知県植物誌」 第29回寺田寅彦記念賞・特別賞

受賞しました！

「高知県植物誌」が第29回寺田寅彦記念賞・特別賞を受賞しました。寺田寅彦記念賞とは、財団法人高知県文教協会が1881年（昭和56年）より、寺田寅彦に関係した作品や自然科学を対象とした研究または随筆に対して授与しているものです。「高知県植物誌」は、寺田寅彦賞始まって以来、はじめての「特別賞」受賞となりました。



Column.....

調査・観察し続けることの大切さ

田辺 由紀 (旧姓：倉橋)

近年、高知県にも温暖化の影響か海岸部を中心に南方系の植物が多く入ってきているようです。高知県植物誌には、琉球・小笠原に分布があったり、鹿児島県を北限とするいわゆる国内帰化の種として、ハマアズキ・オキナワバライチゴ・ゲンバイヒルガオ・オオキダチハマグルマなどが記載されています。特に、高知市仁井田は高知新港や花卉用ビニールハウスがあることに加えて混暖なため、タチナハカノコソウやラフ・チェインピー、エノキアオイ、タマザキフタバムグラ、ルビーガヤなど、海外の南方系の植物が多く入ってきているようです。海岸部で全く目新しい植物を見かけたら、沖縄や東南アジアの植物図鑑を調べてみると良いでしょう。帰化植物とは人間の活動によって持ち込まれたものを指す



キクバスマレ *Viola palmata* L.

ようですので、南方系のもは国内帰化というよりも自然に分布を広げたと考えた方が適切かもしれません。

また、植物誌の調査で採集されていて出版後に同定された新産帰化種として、カジノハラセンソウ（シナノキ科）、ササハギ（マメ科）、アマゾントチカガミ（トチカガミ科）があります。また、出版後に採集された新産帰化種は、ショウジョウソウモドキ（トウダイグサ科）、キクバスマレ（スミレ科）、ミズヒマワリ（キク科）、シマツククサ（ツククサ科）などがあります。

毎年新しく入ってくる帰化植物は、一時的に入ってきたものか、あるいは気候が合い毎年花を咲かせ定着しているのか、経過観察が大切です。栽培植物も同様です。栽培範囲内なのか、あるいは逸出・帰化かの判断には、長年の観察が必要です。植物誌編纂時にもその判断に悩みました。山中二男『高知県の植生と植物相』（1978）に記載されていて、標本がない帰化植物も数多くあります。山中(1978)に載っている、未採集種を探してみるのもおもしろいかもしれません。

2007年に植物誌調査が終了した後も、各々チームあるいは個人で植物調査・観察を続けてこられている方も多いと思います。フィールドに出て植物を観察していると、ちょっと変わったものを見つける

ことがあります。〇〇に似ているけどちょっと感じが違う、毛が多い、葉の切れ込みが深いなど、植物観察を続けていると、そういう変わり者？に気づく機会が増えてくると思います。図鑑を読んでも答えは出ず、個体差なのか変種あるいは品種なのか、頭を悩ますこともあります。

例えば、秋の植物のラセンソウ（シナノキ科）。地味だし、調査していると服に果実がくっつくやっかいもので、あまり気にかけて観察することのない植物ですが、このラセンソウには二つの型があることが、最近入ってきた標本で分かりました。（写真参照）

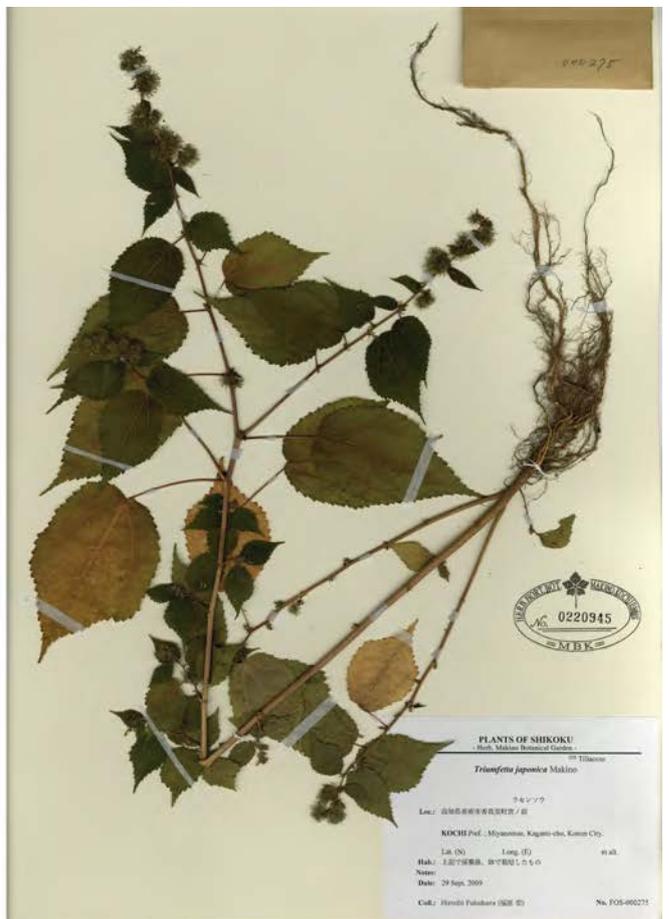
事の発端は、「除草剤が効かないラセンソウがあるので調べてほしい。」という連絡からですが、京都大学標本庫の調査でラセンソウと同一種であることが分かりました。また、既存の植物誌の標本を見てみると、このタイプのものが数点入っていました。

標本を整理していると、その変わり者が種の中の変異なのかどうか、その変異の幅が分かってくるが多くあります。そこで皆さんも頭を悩ましたときは、ぜひ標本庫にいらして、これまで採集された県内の標本を始め、国内の標本を観察・比較してください。解決するかもしれませんが・・・。

また、植物誌の巻末の市町村分布リストを眺めてい



従来認識されていた型



今回認識された型（茎頂に花がかたまってく）

ると、自分の住んでいる市町村で採集されていない種が意外に多いことに気づくと思います。植物誌事業中はエリアで調査していたためですが、やはり自分の住んでいるところやフィールドに穴があるのは気になるとのことですし、フロラを知っておきたいという気持ちは当然のことと思います。

実際、植物誌の市町村分布リストを見て、引き続き地道に調査して下さっている方々もいます。植物誌の地域調査員であった大倉浩典さんもその一人です。大倉さんは越知町をフィールドとし、植物誌編纂後に152点の未採集標本を集め、牧野植物園標本庫に寄贈して下さいました。

大倉さんが採集された標本の中で、リュウゼツサイ *Lactuca indica* L. var. *dracoglossa* (Makino) Kitam. という植物があります。リュウゼツサイはアキノノゲシの変種、栽培植物で、過去の記録はあっても近年高知県で採集されていない種でした。このように、植物誌編纂後に確認された種も出てきます。このような成果は、やはり地元をフィールドとする皆さんのこつこつとした地道な調査があつてこそ、初めて出てくるものと思います。是非、調査や観察を続けて、より充実した植物誌が将来出来るようにしていきたいものです。そうなるように牧野植物園でも四国・高知県のフロラ研究は続けて行きます。

新産帰化植物3種

元地域調査員 坂本彰

高知県植物誌発行以降確認した帰化植物3種を紹介いたします。

ミズヒマワリ *Gymnocoronis spilanthoides* DC.

香南市野市町深淵にある、し尿処理施設に付属する親水公園、高知市春野町の新川川とその支川の大用川(たいようがわ)で繁茂している。中央・南アメリカ原産で、非常に繁殖力が強く外来生物法に基づく特定外来生物に指定され、栽培、運搬等が禁止されている。

昨年(2009年)7月物部調査チームのサポーターの方から「見たことのない植物が繁茂している」との情報が入り、標本とともに寄せられていたが、標本だけの情報では種が特定できないままにいた。10月に現地調査を行い、やっと種を特定することができた。

ミズヒマワリの花には、ピロリジジンアルカロイドという化学物質が含まれており、アサギマダラはこれに強く誘引されることが知られている。野市町の生育地でも、ちょうどアサギマダラの南下の時期であったこともあり、吸蜜のため非常に多くのアサギマダラが飛来していた。



ミズヒマワリ *Gymnocoronis spilanthoides* DC.

ショウジョウソウモドキ *Euphorbia heterophylla* L.

香美市土佐山田町逆川の棚田の畔、野市町深淵の畑に生育している。土佐山田町逆川では個体数は多くないが(10個体程度)、野市町深淵では畑一面に繁茂している。アメリカ(熱帯から亜熱帯)原産で、日本帰化植物写真図鑑(全国農村教育協会)によれば、「熱帯では畑の強害雑草となっている」とのことで、野市町の畑ではそれに近い状態ではないかと推測される。

ショウジョウソウに似ていることからつけられた和名とされるが、葉の形(葉の色は赤くならない)などからはポインセチアに似ている。



ショウジョウソウモドキ *Euphorbia heterophylla* L.

シマツユクサ *Commelina diffusa* Burm.f.

香美市土佐山田町松本で標本を採集したが、その後香南市赤岡町赤岡、香南市野市町深淵でも生育していることが確認された。隣の徳島県では2005年に藍住町で見つかり、その後徳島市など広範囲に分布していることが確認された事から、高知でも生育しているのではないかと探したが、植物誌調査の期間中には見つけることができなかった。国内では、九州南部、沖縄に分布しており、高知でも自生していたのにもかかわらず見落とされていたのではないかと考えることもできるが、愛知県や茨城県でも確認されているとの情報（帰化植物に関するML）もあり、帰化の可能性が高いとするのが妥当なところであろう。

ツユクサに比べ、苞の先端が細長く流れているのが特徴で、ツユクサよりも湿った環境（イボクサの生えるような環境）でも良く成長している。「蒴果は3室で5種子がある」と書かれた図鑑（平凡社）もあるが、私が12個の蒴果について調べたところでは、3室で種子4個1、3室で種子3個3、2室で種子3個3、2室で種子2個4、2室で種子1個1といった状況であった。私が採集したのが11月下旬という遅い時期であったためこのような結果になったのかもしれない。



シマツユクサ *Commelina diffusa* Burm.f.

上記3種のうち、ショウジョウソウモドキとシマツユクサについては、香南市野市町在住の川村恒介さんから頂いた情報によって、標本を採集することができました。心から感謝申し上げます。

information.....

■ 高知県植物誌」追加情報について

ニュースレター前号で、新たな産地が確認された植物の情報をまとめて掲載しますとお知らせしましたが、エリア新産種をはじめリスト作成が本号のまともに間に合いませんでした。ご了解下さい。

■ 高知県の植物に関する問い合わせについて

毎週月曜日（休日の場合はその翌日）に研究部藤川または田辺が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。

また、四国内で採集された標本をFOS(Flora of Shikoku)の通し番号をつけて管理しています。エリア新産の植物や見たことがないといった植物がありましたら、正確な同定と分類学研究のために完全標本を採集し、押し葉状態にしたものを佐川急便（クール宅急便）着払いで牧野植物園・標本庫田辺由紀宛にお送りいただくか、直接植物園にお届け下さい。なお、発送の際にはお電話にてご連絡下さい。

今後の取り組み

■ タンポポ調査・西日本2010へ参加

タンポポ調査・西日本2010始動！

西日本（福井県以西、近畿・中国・四国と九州では福岡と佐賀）で、2009年から始まったタンポポ調査の本調査が、3月1日からスタートします。身近な自然を考えていこう！という市民参加型の環境調査です。別紙資料をご参照いただき、2010年本調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

■ ニュースレターの発行について

高知県植物誌ニュースレターを2010年も継続して年2回の発行を予定しています。

高知県の植物に関する情報があれば、お寄せ下さい。また、ニュースレターがご不要の場合にもお手数ですがご連絡下さい。

本号は、藤川和美・田辺由紀・向井有香（レイアウト）でまとめました。

【お問い合わせ】



高知県立 牧野植物園
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

〒781-8125 高知市五台山 4200-6
TEL:088-882-2601/FAX:088-882-8635
<http://www.makino.or.jp/>

高知県植物誌出版以降に確認された新産種

◆新産

- ・イガホビユ *Amaranthus powellii* S. Watson (ヒユ科ヒユ属)
土佐山田町南組, 坂本 FOS-000476, 奈半利町立町, 倉橋 FOK-613161
- ・ショウジョウソウモドキ *Euphorbia heterophylla* L. (トウダイグサ科トウダイグサ属)
土佐山田町逆川, 坂本 FOS-000456, 野市町深淵, 坂本 FOS-000471
- ・キクバスマレ *Viola palmata* L. (スマレ科スマレ属)
高知市五台山, 稲垣 FOS-000027
- ・モミジバヒメオドリコソウ *Lamium hybridum* Vill. (シソ科オドリコソウ属)
四万十町作屋, 野村(靖) FOS-000641
- ・ミズヒマワリ *Gymnocoronis spilanthoides* DC. (キク科ミズヒマワリ属)
野市町深淵, 坂本・福原・山岡他 FOS-000335; 春野町西分, 坂本 FOS-000465
- ・ヒメブタナ *Hypochaeris glabra* L. (キク科エゾコウゾリナ属)
室戸市室津河内, 坂本 FOS-000704
- ・キビシロタンポポ *Taraxacum hideoi* Nakai ex H. Koidz. (キク科タンポポ属)
大豊町粟生, 稲垣・青木・金親 FOS-000660
- ・シマツユクサ *Commelina diffusa* Burm.f. (ツユクサ科ツユクサ属)
土佐山田町松本, 川村 FOS-000473; 土佐山田町松本, 坂本 FOS-000474

◆新産品種

- ・アオユキノシタ *Saxifraga stolonifera* Curtis f. *viridifolia* (Makino) H. Hara
(ユキノシタ科ユキノシタ属)
野市町母代寺, 川村 FOS-000315
- ・シロバナシコクママコナ *Melampyrum laxum* Miq. var. *laxum* f. *leucanthum* T. Yamaz.
(ゴマノハグサ科ママコナ属)
香我美町奥西川, 坂本 FOS-000330
- ・ハイシロノセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *radiata* Sch. Bip. f. *decumbens* (Greenm.) Sherff
(キク科センダングサ属)
夜須町西山, 坂本 FOS-000469
- ・シロバナアザミ *Cirsium japonicum* Fisch. ex DC. f. *leucanthum* Nakai (キク科アザミ属)
高知市七ツ淵, 黒川 FOS-000713

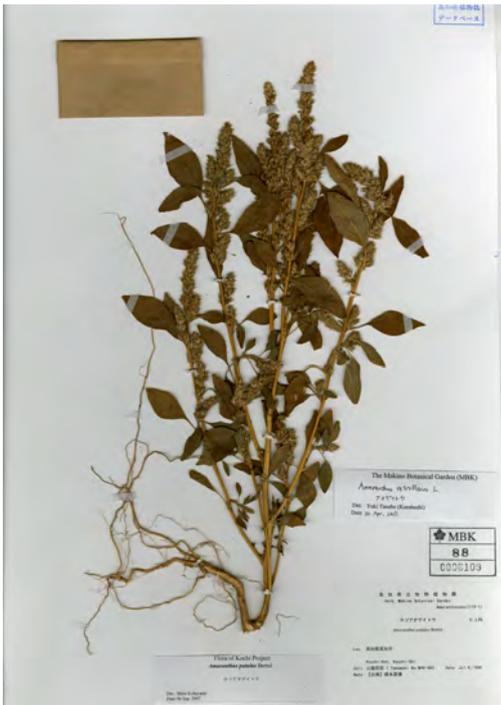
◆文献には掲載されているが、標本がなかった種

- ・キミノシロダモ *Neolitsea sericea* (Blume) Koidz. f. *xanthocarpa* (Makino) Okuyama
(クスノキ科シロダモ属)
四万十市不破, 田城(松)・田城(光) FOS-000384, 000385
- ・リュウゼツサイ *Lactuca indica* L. var. *dracoglossa* (Makino) Kitam. (キク科アキノノゲシ属)
越知町, 大倉 FOS-000346

再検討の結果明らかになった新産種

- ・アオゲイトウ *Amaranthus retroflexus* L. (ヒユ科ヒユ属)
高知市, 山脇 M46-003
- ・ササハギ *Alysicarpus vaginalis* (L.) DC. (マメ科ササハギ属)
高知市仁井田, 倉橋 FOK-612786
- ・カジノハラセンソウ *Triumfetta rhomboidea* Jacq. (シナノキ科ラセンソウ属)
高知市仁井田, 青木 FOS-613113
- ・ベゴニア・センプルフローレンス *Begonia semperflorens* Link & Otto
(シュウカイドウ科シュウカイドウ属)
南国市萩野, 穂岐山 No.100; 宿毛市山北, 田城・酒井(泰)・佐田他 FOK-079052;
大豊町大西, 稲垣・松本(満)・奥宮他 FOK-070344
- ・アマゾンチカガミ *Limnobia laevigatum* (Humb. Et Bonpl. ex Willd.) Heine
(トチカガミ科リムノビウム属)
土佐山田町間新池, 古沢・奥宮・栗原 FOK-079421

新産種の一部を紹介
アオゲイトウ〈帰化〉



北アメリカ原産。山中(1978)では高知市に記録があり、今回確認した標本も1946年に高知市で採集されたものである。花被片は上部でもっとも幅広いさじ形で、小包は花被片の1.5~3倍の長さがあり、花穂は著しくとげとげしく見える。全国的に少なくなってきたようである。

ササハギ (マルバダケハギ)



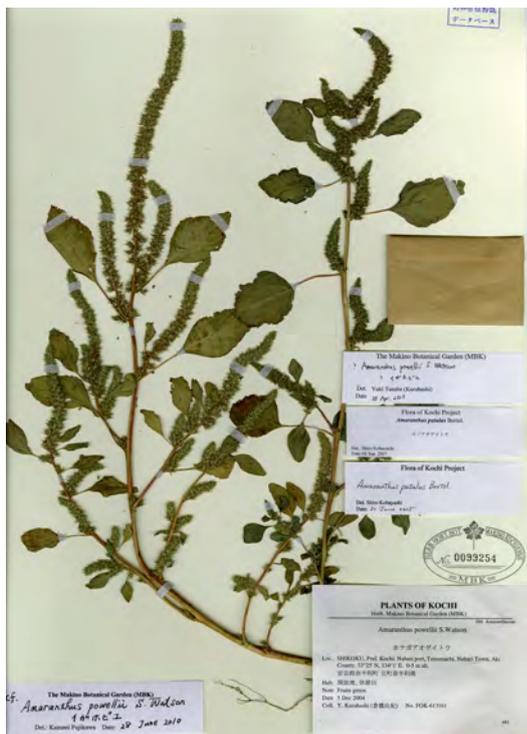
ラフ・チェインピーと同じササハギ属で、奄美以南に分布する。外見はヌスビトハギ属のシバハギに似るが、葉は単葉。葉形に変異が大きく、楕円形~披針形。花は赤く、茎の先に総状花序となる。定着しているか継続調査が必要である。

モミジバヒメオドリコソウ
(キレハヒメオドリコソウ)〈帰化〉



ヨーロッパ原産。本州(福島県以西)、九州に帰化が知られていたが、今回高知県でも発見された。葉の鋸歯は深く切れ込み、葉脈が凹んでちりめん状になる。一見して、ホトケノザとヒメオドリコソウの雑種起源と推定される形態で、両種の雑種と解釈するほかに、ヒメオドリコソウの種内変異群とする意見もある。

イガホビユ (ホナガアオゲイトウ)〈帰化〉



北アメリカ原産。本州(宮城以南)・四国・九州に帰化する。よく似たホソアオゲイトウとは、頂生の花序はあまり分枝せず、茎や花序の軸は無毛あるいは毛を散生する点で異なる。